

# 地域との共生

## 主な取り組み

2011.5.4  
OSAKA STATION CITY 開業

2012.3.15  
山陰合同銀行と米子支社が「地域振興に関する業務協定書」を締結

2012.4.1  
西宮駅直結の「JR西宮駅NKビル」に認可保育所を開園

2012.10.1~  
鳥取県、島根県と連携した山陰デスティネーションキャンペーン開催



駅のリニューアル  
デスティネーションキャンペーンにあわせ、玉造温泉駅を地元の皆さまとともに整備しました。



世界の鉄道発展に貢献  
2012年2月、特急「はまかぜ」などに使用していたキハ181系気動車計15両をミャンマー鉄道省へ譲渡しました。

## 推進責任者のコメント

代表取締役副社長兼執行役員 来島 達夫



### 基本的な考え方

鉄道を核に事業を営む当社は、地域を離れては存在し得ません。それがお客様、そして世の中の皆様の安心感・信頼につながるひとつの要素であり、また、そこに私どもJR西日本グループの価値も見出せるのではないかと考えています。

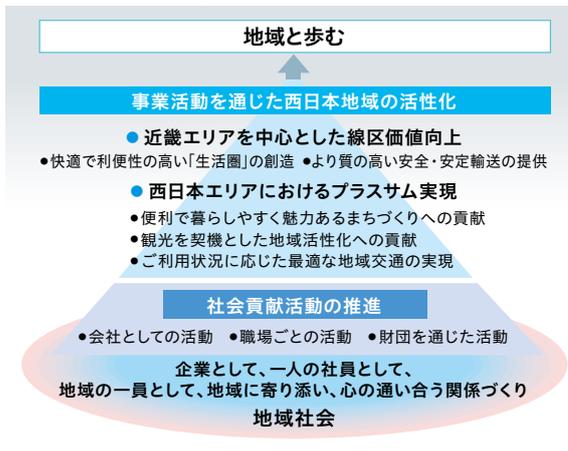
そこで私どもは現在推進中の「中期経営計画」において、「地域との共生」を新たな戦略のひとつとして掲げています。また、次期中期経営計画でもこの考えは変わらず持ち続けたいと考えています。

人口減少をはじめとした、昨今、そして今後の社会情勢、鉄道を取り巻く環境を考慮すると、地域と共に課題を解決していくことが何よりも大切です。私どもはグループを挙げ、それぞれのエリアでエリアの特色を活かし、地域とともに何ができるのか、しっかりと検討していきます。

また、事業活動を越えた社会貢献活動の分野でも、地域との連携は欠かせません。事業活動とつながりの深い「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」、そして「地域社会」という5つの分野を中心とし、活動を推進します。

取り組みを確実に積み重ね、西日本地域の活性化に貢献できるよう努めていきます。

### ■ 地域との共生 全体像



### 2011年度の総括

事業活動を通じた西日本地域の活性化策として、観光キャンペーン開催期間を中心に、グループ会社や地域と連携した「おもてなし」施策の実施、観光を意識した臨時列車の運行や駅からの2次アクセスの整備などを進めました。加えて、保育施設の開園や子育て世代向けのフリーペーパー「とことことん」の発行などを実施、その他、バスアクセス改善のための調査や案内表示の検討を進めました。また、関係自治体との検討の場を設定し、公共交通ネットワークについての議論を継続しています。

社会貢献活動の分野では、相次ぐ自然災害の中、会社としてボランティア活動を支援する制度を拡充し、多数の社員が利用したほか、JR西日本あんしん社会財団との連携のもと、社員が参加し、各地で救急救命の啓発活動を実施しました。

### 今後の方針

引き続き、観光を契機とした地域活性化については、2012年度秋季にデスティネーションキャンペーンを実施する山陰エリアをひとつのモデルとし、他のエリアにおいても地域との対話を行い、幅広い分野で地域との連携が実現できるよう、体制を固めていきます。

駅設備や保育施設、バスアクセスなどの整備に向け、地域の皆様や自治体、他交通機関などと連携して、具体的な成果を形にしていきます。

また、社会貢献活動については、JR西日本あんしん社会財団を通じて、今後も引き続き安全で安心できる社会づくりに資するNPOなどへの助成を行うほか、財団と当社が連携し、消防などの協力を得ながら、救急救命の啓発活動を各地で開催します。

加えて、各職場では、社員一人ひとりが自ら参加できるメニューを検討し、特に地域社会に根ざした活動を積極的に推進していきます。

**Plan**  
方針

便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献  
**乗り換えやお買い物にも便利な、  
駅を中心としたまちづくり**

**Do**  
取り組み

**地域との協働に向けた仕組みを構築**

西日本エリアにおいては、地元自治体や地域の皆様と協力し、「まちの玄関口」としての駅機能の充実に向けて取り組んでいく考えです。

具体的には、他公共交通機関への乗り継ぎの改善や、駅や駅周辺での生活機能・都市機能の充実に取り組んでいます。2011年度は、広島エリアで暮らしやすいまちづくりに向けて、具体的な計画の策定を進めました。また岡山エリアで公共交通の利便性向上に向けて、両備グループとの連携を推進し、岡山駅からのバスアクセスを整備しました。

**Check**  
評価

**対話の場を作り、  
具体的な策を検討しました**

関係自治体などとの意見交換を定期的に行った結果、広島都市圏で現状の課題整理や、広島駅橋上化、山陽本線広島・横川駅間新駅設置などのプロジェクトに着手することができました。



広島支社 企画課 課長  
中谷 浩二

**Action**  
今後の方針

**対話を継続し、自治体などとの協働を推進します**

広島都市圏に加え、他エリアでも、自治体などとの定期的な対話の場を持ち、引き続き、他公共交通機関との乗り継ぎの改善など、アイデアを出し合って各エリアに最適なまちづくりの戦略を検討します。

**地域に最も適した交通のあり方の創造**

地元自治体との連携や地域の協議会などを通じ、鉄道の活性化に対する協力関係構築を進め、ご利用状況にあった最適な輸送方法への転換に対する理解を深めていただくため、地域との対話に努めています。

2012年には、三江線活性化協議会との協力のもと、バスによる「三江線増便社会実験」を実施します。現行の鉄道ダイヤに加えて、バスにより増便を実施することで利便性を高め、三江線のご利用促進に取り組みます。

**Plan**  
方針

観光を契機とした地域活性化への貢献  
**地域の賑わいを生み出す観光開発**

**Do**  
取り組み

**地域との協働による、地域の魅力・  
利便性向上と「おもてなし」**

グループ会社を含めた幅広い分野で地元自治体や事業者の方々と連携を図り、各地の特色を活かした取り組みを進めてきました。山陰の魅力をより深く体験するためのイベントなどの実施、2次アクセスの整備、玉造温泉駅の駅舎改良、観光・物産イベントなどの情報発信など、2011年のプレキャンペーンの課題・効果も検証し、2012年秋の「山陰デスティネーションキャンペーン」を実施しました。おかげさまで大変多くのお客様に山陰にお越しいただくとともに、自治体や事業者との協力体制もより強いものとなりました。



幅広い分野で連携



地域との協働で「おもてなし」

**また訪れたいと思っていただける  
「感動のおもてなし」を**

地域が賑わうことが、鳥取県・島根県・JR西日本共通の目標です。山陰デスティネーションキャンペーンでは、お客様に「ほっ」としていただくため、お迎えからお見送りまで、心を込めた接客のバトンをつなぎ「感動のおもてなし」を提供してきました。



米子支社 営業課  
島 充

**Check&Action**  
評価と今後の方針

**地域への観光の定着化と幅広い分野で  
課題解決に向けた継続的な取り組みを実施します**

キャンペーンの効果を一過性のもので終わらせるのではなく、継続すること、定着化が大切です。キャンペーン実施後も魅力的なルート・商品開発や情報発信を継続し、リピーターの確保、地域への観光の定着化を図ります。また、グループ会社も含め、日

常的な対話により地域との連携を一層深め、幅広い分野における課題解決に向けた取り組みを継続します。さらに、山陰での取り組みを、他エリアへも水平展開していきます。

**Plan** 快適で利便性の高い生活圏の創造  
方針 暮らしやすく、長く住んでいただける沿線の創造



取締役兼常務執行役員 近畿統括本部長 **長谷川 一明**

近畿エリアでは、お客様に安心して繰り返しご利用いただける輸送品質の高い鉄道をつくりあげることが目標としています。そのためには、信頼性、利便性の高い輸送サービスの提供や快適な駅空間の提供など、ハード、ソフト両面から一層の改善を重ねていく必要があります。

こうした取り組みにおいては、当社のたゆまぬ企業努力に加え、他の公共交通機関とも連携して交通ネットワーク全体のシームレス化を図ることや、自治体や地域の皆様と協働して、沿線のまちづくりとも一体となって施策を展開していくことも極めて重要と考えています。

例えば、将来においても京阪神大都市圏のコアエリアや新たな定住エリアになると考えられるJR京都・JR神戸線や琵琶湖線沿線などにおいては、子育て世代の方々にもご利用いただきやすい魅力ある線区となることを目指して施策展開を図っていきたくと考えています。

これらのエリアにおいては、自治体をはじめとした関係者の皆様と協働・連携に関する方向性を共有し、具体的な取り組み内容や役割分担について議論を進めています。

多くの方々の緊密なコミュニケーションから生まれる「信頼」「共感」を大切に、真に地域と共生していける鉄道を築いていきたくと考えています。

**Do** 「暮らし」「子育て」をキーワードに  
取り組み

近畿エリアを中心に、「駅および街の機能が充実し、使い勝手が良く、住みたくなる線区」の創造に向けた取り組みを推進しています。これまで、トイレなど駅設備の改良や他公共交通との連携によるアクセス改善、認可保育所の誘致などを進めました。なかでも「琵琶湖線」「JR神戸線」をモデル線区とし、子育て環境の充実など、地域のニーズにきめ細かく応える駅設備整備プランを策定して、具体化を推進しています。さらに線区価値向上をよりいっそうお客様目線で進めるため、2011年度には沿線満足度アンケートをとりまとめ、線区ごとの課題を明確にしました。

**リハビリデイサービス施設の開設**

2012年10月、阪和線南田辺駅高架下に、介護保険に基づくリハビリデイサービス施設を開設しました。同施設ではオーダーメイドのプログラムにより身体機能の維持・回復に特化したサービスをご提供しています。多くの方々に健康で生きがいを持って暮らしていただくとともに、ご家族の介護負担を軽減することによって、地域の活性化に貢献したいと考えています。



**Check&Action** お客様目線での振り返りを実施し、  
評価と今後の方針 具体的な取り組みを進めていきます

子育て世代に向けた地域情報発信や駅設備の改良など、具体的な施策に着手し、関係自治体やグループ会社と一体で取り組

んできました。

取り組みを線区全体へ広げていくにあたって、これまでの取り組みをお客様目線で振り返り、今後の展開へ活かし、線区価値の向上に貢献していきます。

**北陸新幹線開業に向けて**

2014年度末、長野・金沢駅間で北陸新幹線の開業が予定されています。



**導入予定の新型車両概要**

開業に向けて、JR東日本と新型新幹線車両を共同開発します。車両のトータルコンセプトは「大人の琴線に触れる『洗練さ』と心と体の『ゆとり・解放感』」。車両のデザインでは、高速で走行するための造形と日本の伝統的な色使い、新幹線が走行する沿線の風景を融合させ、スピード感と精悍さを表現しました。

**地元の期待に答えていきたい**

地元自治体、建設を担う鉄道・運輸機構、開業後の運営を担うJRの三者で、新幹線の設備計画などについて日々協議を行っています。

新幹線は地域の活性化に寄与することから、多くの方々にご利用いただくことを目指して、「一番良いものを作ろう」と、それぞれの立場から意見を出し合い課題の解決に取り組んでいます。



金沢支社 企画課 **坂野 慎哉**

**用語解説** ●線区：特定区間における線路とその沿線を示すことばで、大阪環状線、JR神戸線、JR京都線などがあります。  
●鉄道・運輸機構：独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

**Plan** 社会貢献活動のさらなる充実  
方針 **地域とともにコミュニティの発展を目指す**

**Do** 「安心な社会」の構築を目指して  
取り組み

### JR西日本あんしん社会財団との連携

JR西日本あんしん社会財団は、福知山線列車事故を契機として当社の寄付により設立された公益財団法人です。当社と連携しながら、「安全で安心できる社会」の実現に寄与する事業を行っています。2011年度は、継続的活動として、いのちについて考え、支え助け合う社会を目指す取り組みとしての「こころのセミナー」や、災害と危機管理をテーマにした「安全セミナー」の開催のほか、市民による初期対応、初期救護の重要性を啓発する目的で「救急フェア」を実施しました。また、学術研究への寄付助成などをはじめ、心身のケアや地域社会の安全構築、そして東日本大震災からの復旧・復興に向けた活動などへの公募助成も行っています。



救急フェア

### 「ロボカップジュニアジャパンオープン2012 尼崎」の支援

2012年3月に開催された「ロボカップジュニアジャパンオープン2012 尼崎」を支援しました。「ロボカップ」は、ロボットの設計・製作を通じて子どもたちの好奇心や探究心を引き出すとともに、人間社会に役立つロボット技術を育成することを目的とした、ユニークな国際プロジェクトです。  
<http://www.robocupjunior.jp>



### 鉄道文化財の保護活動

日本の近代化を支え、人々の暮らしに大きな役割を果たしてきた鉄道の歴史や歴史的遺産、鉄道文化を後世に継承していく取り組みと、これらを積極的に活用する鉄道文化活動として、大阪と京都において博物館を運営しています。また、山口線と北陸線でSL営業運転を行っています。



### 鉄道少年団活動支援

青少年の交通徳の高揚を目的に、(公財)交通徳協会の運営している「鉄道少年団」の活動を、会社発足以来、支援しています。



### JR西日本少年軟式野球大会の支援

次代を担う子どもたちの健全な成長と、地域スポーツの発展に貢献するため、近畿軟式野球連盟との共催で開催しています。毎年8月にJR西日本エリア2府14県から推薦されたチームが出場し、「ぼくたちの甲子園」を合言葉に熱い試合が繰り広げられます。



開会式

**Do** 社員一人ひとりが地域と歩む  
取り組み

### 安全教室の開催

地域の子どもたちに安全に鉄道をご利用いただくため、社員の有志が近隣の小学校などで安全教室を開いています。



安全教室

### 「旅育」の取り組み

次世代を担う子どもたちの健全な育成を支援するため、小学生・幼稚園児などを対象に、駅見学に列車の体験乗車を加えた課外学習プログラム「旅育(たびいく)」を実施しています。2010年度からは山陽新幹線「こだま」号に加え、在来線特急列車にも拡大し、鉄道の利用方法や乗車マナーなどについて、楽しく学んでいただいています。



和歌山駅での「旅育」

### 地域のイベントへの参加

沿線地域の活性化に努めるため、地元主催の祭やイベントに、地域の一員として積極的に参加しています。また、駅施設を開放し、地域の方々にお楽しみいただけるイベントも開催しています。

### 地域行事への参加を通じて「顔が見えるJR」に

観光協会や他企業と協働して、京都の伝統的なお祭をはじめ、さまざまなイベントへの協力を進めています。また、これらのイベントに社員がボランティア参加する際、窓口を担当しています。すばらしい体験をさせていただいていることに感謝しながら、今後も地域の一員として、積極的に活動していきます。



京都支社 総務企画課  
横山 有希

**Check&Action** 現場での具体的な取り組みを  
評価と今後の方針 **積み重ねています**

財団活動をはじめとする会社としての活動が社会に認知されつつあります。地域に根ざす企業として、活動を継続します。

また、多くの社員が積極的に社会貢献活動に参加し、輪が広がっています。今後はこれまで以上に情報発信に注力し、活動を盛り上げていきます。